

横浜市福祉サービス第三者評価 評価結果総括表

事業所名	社会福祉法人 みどり会 きらら保育園
報告書作成日	2006年3月20日 (評価に要した期間 4ヶ月)
評価機関	社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会 横浜生活あんしんセンター

評価方法

<p>自己評価方法</p> <p>(実施期間:17年11月25日~17年12月27日)</p>	<p>自己評価票を全職員に配布し、それぞれが自己評価に取り組み、その結果をもとに、チーフ会議で話し合いを進め、主任・園長が一本化した。</p>
<p>評価調査員による評価方法</p> <p>(実施日:18年2月10日)</p>	<p>評価調査員(2名)による現地視察や書類確認、面接ヒアリング調査(園長、主任、栄養士・看護師)を行った。</p> <p>また、職員(中堅・新人・非常勤)にも1対1の職員ヒアリングを行った。</p>
<p>利用者家族アンケート実施方法</p> <p>(実施期間:17年11月25日~17年12月16日)</p>	<p>全利用者108名の保護者・家族を対象とし、きらら保育園と評価機関(市社協横浜生活あんしんセンター)の連名でアンケート依頼文を連絡帳に挟み込んで配布し、その3~4日後に本アンケートを同様の方法で手渡し、約20日間の回答期間を設け、匿名で評価機関に返送してもらった。</p>
<p>利用者本人調査方法</p> <p>(実施日:18年1月25日)</p>	<p>園児108名のうち、予め園側にリストアップを依頼した中から10名(全園児の9.3%)を対象に、評価調査員2名が保育観察(0~4歳児4名)、本人聴き取り調査(5~6歳児6名)を行った。</p>

評価結果についての講評

【施設の特徴】

きらら保育園は、京浜急行の能見台駅から徒歩5分のニュータウンの中にあります。周辺はアメリカのボストンで19世紀に作られた高級住宅街「ビーコンヒル」をイメージした高層住宅が建ち並び、隣接地にはショートステイセンターや地域ケアプラザ・特別養護老人ホーム・知的障害者通所更生施設・地域活動ホームなどがつくられ、福祉ゾーンの一部になっています。

平成12年に開設された園舎は天井に杉、太い梁には赤松、床には檜などの国産木材をたっぷり使った、木のぬくもりがふんだんに感じられる造りになっており、全保育室から南側のテラスに出られるようになっていきます。ランチルームは吹き抜けになっており、高い窓に描かれたステンドグラスの「太陽」や「海」「山」などが各クラスの名前になるなど、趣向が凝らされています。

保育内容は、イタリアの教育家モンテッソーリの教育理念に基づき、「自分でしたいことができる（自立）」「自分がしたくないこともできる（自律）」「自分がしたいことでも我慢できる（自律）」を保育目標に掲げ、縦割り保育を実施し、年度の途中でも発達に応じてクラスを移行するなど、子ども一人ひとりを大切にしたい保育を実践しています。

子どもたちそれぞれの発達に合わせ、モンテッソーリの教具や園が独自に工夫した遊具などを利用した創造的な「遊び」を行う一方で、3～5歳児は、年齢別に音楽・リズム・運動など専門講師による一斉活動を行うなど集団意識を育てる活動も行われています。

さらに、地域の子育て支援にも力を入れており、市内で6園しか行われていない病後児保育の実施をはじめ、一時保育や長時間保育、園庭開放、育児相談、子育て講座、子育て支援サークル「きららっこクラブ」の開催など、活発な地域子育て支援事業を展開し、H17年10月からは、地域子育て育児支援センター園として活動をしています。

【特に優れていると思われる点】

①モンテッソーリ教育を柱にした一人ひとりを大切にする保育の実践

- イタリアの教育家モンテッソーリの教育理念（子どもの心身の発達段階をふまえ、自発的活動を尊重する教育法）を取り入れ、子どもが「知りたい」「できるようになりたい」という欲求（探求心）を大切にし、子ども一人ひとりの発達に合わせた活動や援助を実施しています。
- 1歳～2歳児、3～5歳児の縦割りグループが2つずつで活動し、年度途中でも個々の発達段階に合わせてクラスの移行が行われます。移行の際は担当の保育士が付き添って移行し、新しい保育士に引き継がれます。縦割りの中で、年長児が年下の子どもの面倒をみたり、年少児が年上の子どもをお手本にする等相互の働きかけが自然な形で行われています。
- また、すり鉢でごまをする「ごますり」や織り機を使った「ポシェットの製作」など「お仕事」と呼ばれる活動やモンテッソーリの教具を使った「立体パズル」「メダルインセツ（型が抜いてある板を使い、模様を描く遊び）」、さらに「絵の具遊び」や「色水遊び」など、多彩な活動がいつでもできるように用意されており、子どもたちの集中力や創造力が培われています。
- 保育士たちは、園の方針・目標をより深く理解・実践するために、モンテッソーリ教育を学ぶ専門的な教育機関に通い、資格を取得しています。また、モンテッソーリ委員会を立ち上げ、教具の見直しや子どもの見方などについて毎月内部研修も行っています。

②保育方針が生きる環境構成

- 園舎は天井に杉、太い梁には赤松、床には檜などの木材がたっぷり使われ、木のぬくもりが感じられる造りになっています。全保育室から南側のテラスに出られるようになっており、保育室・テラス（1階はウッドデッキ）を一体化して使うことができるようになっていきます。天気の良い日などには、テラスで外気浴や水仕事・リズム遊びなども行われています。

- 各保育室は高い壁がなく広々しており、子どもたちの背丈に合わせた棚でコーナーが設けられ、棚には、モンテッソーリの教具をはじめ様々な遊具や絵の具など素材が並び、子どもたちがいつでも、手にとって思い思いに遊ぶ事ができるようになっています。また、一人で使える椅子や机も置かれ、子どもたちが様々な活動に落ち着いて、集中し取り組める環境構成になっています。
- ランチルームはオープンキッチンになっており、子どもたちから調理する様子が見え、栄養士・調理士からも子どもの食事状況を観察できるようになっています。2階の広々とした廊下の一角には子どもたちが毎月行うクッキングのためのキッチンがあり、食育への取り組みが行われています。
- 階段下の隠れ家的な図書コーナーや園庭には子どもが自分の力で取り組むことで運動能力が高められるよう設計された大型遊具（雲梯や滑り台などが一体化した遊具）を設置するなど、様々なところに子どもの発達への配慮や工夫が凝らされています。

③先駆的な病後児保育への取り組みと地域子育て支援機能

- H12年10月より、専任の看護師・保育士を配置し、病後児保育「ひかり」を開設しています。現在登録者は117名で、H17年度実績は4月から12月までの9ヶ月で延216名、実人数112名で、かかりつけ医と相互に連携をとり、病気回復期の子どもを4名まで預かっています。
- 横浜市病後児保育協議会に所属し、月に1回病後児保育を実施している他園と情報交換や研究検討等を行うとともに、施設長・保育士・栄養士・看護師の4部門に分け、専門家を招いた研修を行うなど更なる研鑽を図っています。
- また、園では、H17年10月より、地域子育て支援のための「地域子育て支援センター園」になり、病後児保育のほかにも、長時間保育や一時保育、週3回の園庭開放、毎週火曜日に開催している会員制の子育てサークル「きららっこクラブ」、育児相談や子育て講座を実施し、地域の子育て支援の中核的役割も担っています。

[特に改善や工夫などを期待したい点]

①非常勤職員を含む人材育成の更なる取り組みを

- 保育現場で一般的に増加傾向にある非常勤職員に対して、資質向上のための研修への取り組みは、時間的な制約があることから、どの保育現場でも現状ではなかなか困難な状況です。さら保育園では、勤務シフトの配慮により非常勤職員でも外部研修に参加していますが、園が大切にしているモンテッソーリ教育についての研修等を含め、職員と同様の取り組みまでは至っていないことが惜しまれます。まず、園内部での非常勤職員に向けた研修制度の確立や責任・権限（役割分担）の明確化を図ることで、自らの役割と課題を一層認識するとともに、意欲的な取り組みも期待でき、保育サービスのさらなる充実が図られることと思います。
- また、日常業務や研修を通して職員は自己のスキルの問題として自己評価し、職員会議等においてサービスの見直しを行っていますが、職員の技術向上のための仕組みをさらに強化するため、個々の職員の習熟度に応じた役割や目標の明確化、人事考課（能力・意欲・態度などを定期的に把握し、人事管理に反映させる仕組み）を含めた、より体系的な評価システムの確立が望まれます。

②幼児クラスの保護者へより細やかな連絡体制を

- 送迎時の保護者との口頭による連絡やコミュニケーションが、長引くことも多いことから、H17年度より幼児クラスは掲示板での連絡に切り替えました。掲示板では、連絡事項だけでなく、一日の保育内容を伝えるなど工夫は行われているものの、連絡帳での個別の連絡は、通常、便や食事などのやりとりに留まっています。

- 一日子どもを預けている保護者にとって、その日の子どもの様子は、楽しみでもあり、気がかりでもあるでしょう。家族アンケートからも子どもの様子をもっと「聴きたい」「知りたい」などの声が複数あがっていました。今後、幼児クラスの連絡帳のさらなる活用やメール等新しい方法も含め、より細やかな個別の連絡体制への工夫を期待したいと思います。

③今後の施設運営に向けたさらなる取り組み（中長期計画の策定）を

- 園では、絶えず市の動向や今後の保育情勢、地域の子育て環境などの情報を収集していますが、それを活かして、さらに一歩先を見据えた課題設定や環境整備を計画的に推進していくことが大切と思われます。法人として、新しいサービスプロセスや運営の仕組みを検討するとともに、中長期的な事業の方向性を定めた計画を立てることで、一層効率的・効果的で安定した施設運営を図って行くことができると考えられます。
- また、日常の保育の中で、地域の高齢者とともにしている公園での「花壇づくり」や公園散歩時の「ゴミ拾い」、リサイクルへの取り組みなど、積極的な活動が行われていますが、園が一体となって環境への配慮を行うためには、具体的にどのような環境改善に取り組むかを園の方針や目標で明確化し、環境にやさしい保育園であることを打ち出すことで職員や利用者をはじめ、市民からも安心や信頼が高まると考えます。

評価機関による評価 きらら保育園



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者本人の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 職員は、基本方針の柱であるモンテッソーリ教育理念の理解をめざし毎月の職員会議で研修を行っている。また、基本方針は全職員携帯の業務マニュアルにも明記され、必要に応じて確認できるようになっている。職員ヒアリングでも基本方針・目標が理解・浸透されていた。 保育計画は、基本方針の柱であるモンテッソーリの理念に基づいて作成され、異年齢混合保育や子どもの意思を尊重した個別活動を盛り込んだ内容になっており、活動に合わせた教具や遊具を設置するなど環境構成にも配慮された計画となっている。 指導計画は子どもたちが日常の遊びや生活の中で自分のやりたい事を選び、要望を伝え、自分の意思で取り組めるよう作成されており、子どもたちはごく自然に自分で決めた活動を行っている。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 入園時に、園長・主任・担任が個別で面談を行っている。乳児や健康上配慮が必要な子どもへの面接は栄養士、看護師が同席し、より正確な情報収集を行い、入園後の生活が安全に行えるようにしている。また、入園後には担任による家庭訪問も行い、家庭状況の把握も出来るようにしている。 個人面接記録は、職員室の棚に保管され、必要に応じて全職員が確認できるようになっている。 新入園児の短縮保育は、個々の子どもに合わせた日程等が書き込まれたプリントを保護者に配布し、説明を行っている。 0～1歳の連絡帳は、複写式のノートを活用し、保護者と園の双方から基本情報や1日の活動内容等が詳しく書き込まれている。 月案は、子どもの状況に応じてクラス会議で話し合わせ、見直されているが、変更した月案を記録に残すところまでには至っていない。

I-3 快適な施設環境の確保



- ・ 清掃は「そうじマニュアル」に基づいて行われ、屋内・外とも清潔で、適度な換気や温度調整がなされている。
- ・ 1Fと2F（0歳児保育室）の2カ所に沐浴設備がある。0歳児室内の設備には、手すり・シャワーが完備されている。1Fは泥んこになった足やおしりを流すシャワーとしての活用が主である。
- ・ 保育室は、低い棚等を活用し、コーナーが設けられている。また、食事をとる部屋はランチルーム、寝る部屋はホールを活用し機能別の空間を確保している。
- ・ 日常から保育室・ランチルーム・ホールなど、園内のあらゆる場所で異年齢混合保育が実施され、発達に応じてクラスを移行し、個々の発達に応じた環境の中で生活できるようになっている。

I-4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



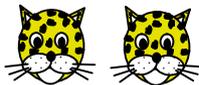
- ・ 0～1歳児については、排泄や食事、運動等のねらいやポイントが記された個別指導計画が作成されている。
- ・ 特別な課題を持つ子どもについては、保護者との面談記録や療育センター等とのやりとりの記録もあり、クラス研修等で話し合いながら保育をすすめているが、個別の指導計画が作成されるまでには至っていない。
- ・ 「個別ケース記録」ファイル等の子どもの記録内容は事務室とドア続きになっている職員休憩室の棚に保管されており、職員が閲覧できるようになっているが、全職員に周知するまでには至っていない。
- ・ クラス移行は年度途中でも個別に行うため、前担当保育士が継続的に関与しながら移行し、新担当保育士との情報交換を行っている。また、「次年度引継ぎシート」が作成され「個別ケース記録」にファイリングしており、必要に応じて閲覧できるようになっている。

I-5 保育上、特に配慮を要する 子どもへの取り組み



- ・ ケース会議は毎週1回程度開催され、会議の内容については記録もとられ、ファイリングされている。障害やアレルギー等配慮の必要な子どもや、さらに手足口病など一時的に配慮を要するケースについても会議を通じて職員間で情報を共有している。
- ・ 外部の障害児研修への参加やクラス研修が行われ、障害児保育に積極的に取り組んでいる。
- ・ アレルギー疾患のある子どもについては、子どものかかりつけ医からの意見書、与薬依頼票、毎月の状況の確認書を提出してもらい、除去食の必要性の確認や解除の申し出を受け、面接などで保護者と連携を図り、個別に献立表を作成している。
- ・ 外国籍の子どもの受け入れに際しては、いろいろな国の子どもたちの写真を見せ、理解を促すとともに、文化（暮らしぶりなど）を紹介した本等を意識的に提示するなど異文化を学ぶ活動へとつなげている。また、日頃から子どもとともに「世界の大陸地図づくり」を行い、他の国々への意識や関心を高めている。
- ・ 意思の疎通が難しい保護者には、子どもを通訳にしたり、身振り手振りや英語を混ぜるなど、その場でできる対応を行っているが、より実践的な対応策（例えば、通訳ボランティアの活用等）を考慮するところまでには至っていない。

I-6 苦情解決体制



- ・ 事務室の窓口ガラス面に苦情解決の目的・解決体制・第三者委員の名前・住所・TELが掲示されている。第三者委員は地区民生委員・児童委員、法人監事（税理士）の2名である。しかし、掲示はやや小さく、目立たない状況である。
- ・ 事務室窓口にポストを設置している。意見・要望・苦情・不満の申し出用紙も置かれ、入園時に配られる「きらら保育園ガイド」にも意見・要望を受け付ける事を明記し、受付担当者名や第三者委員名も記されている。クラス毎の懇談会や行事開催後のアンケートも行われている。
- ・ 「横浜市福祉調整委員会」などの他機関のパンフレットは置かれているが、連携体制が図られるところまでには至っていない。
- ・ 苦情等を受けたときは、職員会議や保護者への面談を通して、その原因になった出来事や状況を出来るだけ速やかに正確に検証し、解決・対応に努めている。職員には結果についても会議で周知している。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅱ－1 保育内容【遊び】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の部屋にはグループで使う机のほか、一人で使える机や椅子があり、子どもが自由に取り出せる位置にモンテッソーリ教具や遊具などが置かれ、それぞれの子どもが自分の好きな遊びや仕事（活動）に落ち着いて取り組めるようになっている。 ・ 子どもたちは園庭で泥水遊びや砂山作りなどのグループ遊び、保育室では一人で絵本を読んだり、編み物をしたり、思い思い自由に活動している。 ・ 茄子や西洋パセリ、ミニトマト、トウモロコシなどの栽培を行っている。また、稲の栽培では、種もみ、発芽観察、苗植え、害虫予防、実り、収穫を通し植物観察を行い、収穫した米を精米し、餅つき大会でもち米との違いを味わうなど、植物が成長し食べ物になるまでの過程をじっくりと捉える活動を行っている。 ・ 織り機や牛乳パック編み（牛乳パックを使いリリアンの要領で毛糸を編む）、色水遊びなど発達に応じて自分の好きなことに取り組み、自由な色や素材を選び時間内で完成できなくても、やりたい時に続きができるように配慮されている。 ・ 園の特徴の一つともいえる3・4・5歳児の縦割り異年齢でクラス編成がされており、遊び・製作・給食・午睡など日常生活が一緒に行われている。着替えや排泄の場面でも年長児がごく自然に年少児に手を貸している様子がみられた。 ・ 3歳児・4歳児・5歳児はそれぞれの発達段階に応じ、毎週1回専門の指導員によるリズム・運動・音楽指導が行われている。園庭の大型遊具は、子どもが大人の手を借りずに自分の力で利用する事で、運動能力を高められるように工夫されており、子どもたちは発達段階に応じて挑戦している。
<p>Ⅱ－1 保育内容【生活】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳児クラスで保育士が子どもと一緒に配膳や「いただきます」の挨拶をし、一緒に食事しながら、「お魚おいしいよ」などと声をかけ、食事を勧めている様子が見られた。利用者本人調査や家族アンケートでも、給食への満足度が高く、子どもたちが「給食を楽しんでいる」ことが理解できる。 ・ ランチルームは調理場が見渡せる広いオープンキッチン形式である。食卓には季節の草花が飾られ、各自が布製のランチョンマットを敷き、その上に料理を配膳している。2歳児以上は6人テーブルになっており、みんなで会話をしながら食事を楽しむことができるようになっている。

- ・ 月1回の給食会議では、残食など食事内容を検討し、食事の分量、味付けへの工夫など調理や献立に反映している。
- ・ 献立表には熱や力のもとになるもの、身体を作るもの、身体の調子を整えるものと3区分され、その日の食材が身体の中でどのように働くかが記載され、その月の平均給与栄養量がカロリー計算・提示されている。また食育としての取り組みも記載されている。
- ・ 1・2歳児は日常の保育の場と午睡をとる場所とは分離している。真っ暗にしない程度にカーテンで遮光し調整している。3～4歳児の場合は、ホールを午睡の場所にあてており、個々のベッドを置き、その上に各自の布団を敷いて寝ている。
- ・ 排泄における子どもへの人権配慮は研修によっても十分周知されている。園全体が排泄に対して、開放的で明るい雰囲気統一されており、おもらしに対して、お世話係の年長児が先生を呼びに行き、着替えを手伝ったり、呼ばれた保育士がやさしく声をかけ、シャワーでおしりを洗っている様子が観られた。

Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理〔健康管理〕



- ・ 朝の登園受け入れ時には変わったことがないかを確認している。保育園で体調の良くなかった子どもに関しては、退園時に保護者へ伝えたり、連絡帳を使って報告している。
- ・ 歯磨き指導については、前歯が生え揃った時点を開始とし0歳児からの取り組みが行われている。保育士による仕上げ磨きも行われている。「歯の保健指導法研修会」に参加し、歯磨きの正しい方法・仕上げ磨きの必要性を学び、園内研修で保育士同士の共通理解が図られ実行に移されている。
- ・ 「健康の記録」には、家族歴、生育歴、予防接種記録、健康診断のほか毎月行われる身体計測経過や「歯科検診記録」など、一人ひとりの子どもの健康状態が記録されている。
- ・ 登校停止基準、感染症早見表、経路と予防対策など感染症マニュアルがあり、職員に周知されている。入園時に配布・説明される「きらら保育園ガイド」には医療機関記載による登園許可書と保護者記載による「感染症病状確認書」の提出等が明記されている。
- ・ 感染症が発生した場合には、どのクラスで何の病気が発生したか、玄関前のボードに掲示している。また、保健便りでは内容や予防策について詳細に伝えている。

Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理〔衛生管理〕



- ・ 各クラスに一人ずつ配置されている保育士による保健委員を中心に栄養士や看護師も含め毎月1回保健委員会が開催され、園内の衛生管理状況を見直している。
- ・ 保健委員会による研修が行われ、日常の掃除・大掃除・おもちゃや教材の洗濯や消毒・寝具の洗濯・園庭や砂場など職員による清掃管理が行われており、周知が図られている。

Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理〔安全管理〕

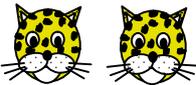


- ・ きらら保育園業務マニュアルとして危険予防・安全管理・防災・健康保健など1冊にまとめられている。携帯用のハンドブック版は、非常勤職員も含めて全職員が携帯し、周知が図られている。
- ・ 事故記録が作成され、発生場所ごとにデータ化されている。事故やヒヤリ・ハットケースなど再発防止に向け改善すべき点を職員会議などで話し合っている。
- ・ 子どものケガについては、発生状況と原因、今後の留意点、受診の必要性などが記録されている。事故記録のほかに小さなケガの記録を作成し、保護者への報告も整備されている。
- ・ 不審者等の対策として玄関の鍵はオートロック方式で常時施錠されており、職員、保護者がカードキーを持ち、その都度開錠を行っている。園庭は施錠してあるが、柵が乗り越えられる高さであることも考慮し、保育者の見守る位置や見守り方などに配慮している。職員は緊急・非常用ブザーを所持している。また、乳児クラスは園庭に出ている子どもの名前をマグネットで貼り確認している。

Ⅱ-3 人権の尊重



- ・ 子どもがお茶をひっくり返すなど失敗してしまった場面でも、保育士は大きな声を上げることもなく、子どもと共に片付けるなど、子どもの自尊心を傷つけないよう対応していた。会議や研修を通して、子どもの人格の尊重について、保育士同士がお互いに建設的な意見を出し合い、反省し合っている。
- ・ 階段下を利用して本などを静かに読める場所があり、他者の視線を気にせずに過ごせる。戸外にも外階段下の隠れ家的遊び場や砂場があり、保育士の目が行き届きながら、落ち着いて過ごせる場所となっている。
- ・ 個人情報や守秘義務について職員への周知のみでなく、実習生にはオリエンテーション時に文章と口頭で説明を行っている。職員も携帯している「きらら保育園ガイド」の中にプライバシーの保護についての守秘義務が明文化されており、入園時に配布され説明がされている。また写真などの肖像権についても保護者の了解のもとに適正に取り扱われている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分から関わりを持とうとしない保護者や逆に異常がないのに自分が虐待をするのではないかと不安を感じて訴えてくる保護者など、朝夕に声をかけ、面接の機会を多く持つよう支援をしている。 ・ 園では、男性・女性の役割に対して固定的な捉え方はしていないが、生物として当たり前の父と母の役割が差別ではないことを認識し、そのことによる不利益がないようにしながらも両者の特性を伝えていくことが園としての義務と心得、子どもに伝えている。
<p>II-4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎新年度開始前にオリエンテーションを行い、「きらら保育園ガイド」を配布し、1 ページ目に掲げてある保育理念・保育の基本方針・保育目標を説明し、理解を促している。家族アンケートでも回答者の9割が基本方針・目標を認識している。 ・ 園便り・クラス便りなどで折に触れ、子どもの遊びや生活の中から園の方針や考え方が自然に理解できるよう伝えている。また「一日保育体験」に参加し、実際に園の基本方針に触れてもらう機会も設けている。 ・ 0・1 歳児の連絡帳は、排泄（オムツ・パンツ・トイレ）、ミルク量・食事量と内容・保育内容・家庭からの連絡・園からの連絡などがあり、詳細な連絡形式がとられ、園独自の書式で複写式となっている。幼児クラスについては、特別な場合は連絡帳に詳細を記入するが、通常の保育内容は掲示板を活用し、個別に知らせるところまでは至っていない。 ・ 保護者からの相談を受ける際に、人に聞かれないで相談できる部屋としては2階の園長室や1階の図書コーナーなどを利用している。相談内容については、守秘義務を守っている。 ・ 懇談会やホームページなどでビデオや写真を通して日常の保育の様子が伝えられている。また、写真やビデオへの肖像権については、保護者の了解をとっている。 ・ 4月に年間行事予定表が配布され、保護者が保育参加のための休暇等の予定を立てやすいように配慮している。 ・ 保護者会とは常に連携がとられ、運動会や餅つき大会など行事での自主的な手伝いも行われている。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H17年10月より、区内の地域子育て支援センター園として活動を開始している。また、育児サークル「きららっこクラブ」や「一時保育」、「園庭開放」等を行っており、さらに「育児講座」の際に実施するアンケート等を通して感想や要望の把握に努めている。 ・ 「一時保育」は園の玄関の右手にある専用室で行われている。また、登録制で週に1回活動を行う子育てサークル「きららっこクラブ」では、園の設備を提供、活用している。（H17年度は、4グループ、それぞれが年9回、計36回の活動を実施。）火曜日、水曜日、木曜日の11:00～12:30には「園庭開放」を行っている。さらに、他園に先駆けて、専門の看護師を配置した、「病後児保育」に取り組んでいる。
<p>Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育児相談は月～金の9:30～16:30に実施されている。主任保育士を中心に園長、看護師、栄養士等が必要に応じて対応している。（H17年10月の実績は43件） ・ 毎月、子育て情報等の便り（ほし、きららっこクラブだより）を作成し、園庭開放時やきららっこクラブの活動時に配布している。また、ホームページを作成し、広く情報提供を行っている。 ・ 地域子育て支援活動の開始が2005年10月からと日が浅いため、関係機関のリストは作成されているものの、職員で共有する等の活用までには至っていない。

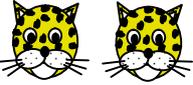
評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ-1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お祭り・運動会などの行事では、地域の人たちを招待している。また、毎月子どもたちが、金沢ショートステイセンターや能見台地域ケアプラザ等に手作りのカレンダーを持って訪問し、歌をうたったり、手遊びをするなど、高齢者と交流を図っている。さらに、交流行事として、敬老のつどいや餅つき、クリスマス会等を行っている。餅つきには学生ボランティアの参加もある。 ・ 近くの公園（堀口北公園）へ散歩の際、出会った親子と元気に挨拶を交わしたり、「一緒にお散歩をしますか？」と保育士が声をかけるなど積極的な交流が図られていた。 ・ 能見台小や西柴小など地域の小学校では、学校案内をしてもらい、一緒に遊ぶなど交流を図っている。小学生の保育体験も受け入れている。また、芋ほりやお泊り保育の際に、同法人内のみどり保育園（厚木市）やかのかん保育園（金沢区内）と現地で合流し、園児同士と一緒に遊ぶなどの交流も行われている。
<p>Ⅳ-2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パンフレットのほか、園独自のホームページが作成され、保育方針や1日の生活の流れのほか、受入可能状況や延長保育・病後児保育・一時保育の料金、職員体制等の情報を提供している。 ・ 問い合わせ・見学への対応担当者は、事務職員が行っており、問い合わせに常時対応できるようになっている。 ・ 見学は、出来るだけ毎週木曜日と決めているが利用者の都合が合わないときは可能な範囲で対応している。見学者には、園のしおりを配布し、連絡票に記入してもらいファイリングしている。それらの情報は、見学者が入園した際、保育の中で活かされている。
<p>Ⅳ-3 ボランティア・実習生の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアや実習生の受け入れはボランティア受け入れ担当者を主任と定め、対応マニュアルに沿って行われ、保護者には掲示で周知し、子どもたちには担任から説明・紹介を行っている。 ・ ボランティアの意見から、「誰にでも同じようにできる清掃チェック票」を作り、清掃マニュアルに反映させるなど、園運営にも活かされている。 ・ 実習生の受け入れでは、実習日程により、部分実習などもあるが、できるだけ期間内にクラスだけでなく、保育園の各部署（一時保育、給食室、病後児保育室など）を少しでも経験してほしいと考え、プログラムを工夫している。

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園の理念・方針であるモンテッソーリ教育に理解を示す人材（職員）を、必要に応じて補充・育成していく計画が策定され、実施されている。 ・ 研修成果は評価され、計画の見直しが行われているが、非常勤職員等への対応には、検討の余地が残されている。 ・ 非常勤職員においても外部・内部研修に参加し、可能な範囲で資質向上への取組みが行われているが、時間などの制約から職員と同様の取組みにまでは至っていない。 ・ 非常勤職員への指導の担当責任者は主任となっている。日常の保育にあたっては適宜各担任と連携が図られている。
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工夫・改善した点は、職員会議や委員会等で検討され、一層のサービス向上へとつなげられている。 ・ 職員は外部のモンテッソーリ教育理論の研修及び関連施設等から、保育に関する評価・指導を受ける仕組みがあり、実施されている。
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「職務分担表」が作成されているものの、職員個々の経験や能力・習熟度に応じた役割や目標の設定までには至っていない。 ・ 職員の意向調査、園長・主任とのノート交換等により、改善提案・要望等を把握する仕組みがあり、乳児クラスも保育室で給食の配膳をできるようにする等、職員からの業務提案が反映されている。 <p>(改善・提案事項 等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各職員が、自らの責任・権限を自覚し、園方針実現のため、いかに貢献・努力できるかを明確にするためにも、「職務分担表」等の見直しを期待します。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マニュアルには「勤務の心得」や「身だしなみ」なども記載され、職員に配布されている。また、年度の初めには研修も行っている。 ・ 園長は自らも率先して職員に説明を行い、倫理や社会規範などを守るよう心がけている。 ・ 古タオルをそのまま捨てず足拭きに利用したり、布オムツを励行している。また、保護者同士がベビーバギー等を貸し借りして利用できるよう、園の保護者会用掲示板を情報交換の場として開放するなど、リサイクルへの取り組みも行っている。 ・ また、子どもたちが地域の公園へ散歩に行く際は、ゴミ袋を持参し、危険が伴わない範囲でゴミ拾いも行っている。 ・ 日常の保育の中で積極的な活動を展開しているものの、環境配慮への考えを方針や目標の中へ位置づけ高めるまでには至っていない。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理念・基本方針は全職員携帯の業務マニュアルの中の『きらら保育園ガイド』にも明記され、必要に応じて確認できるようになっている。園舎のエントランスホールにも掲示してある。また、年1回行われる園長と職員の面談において確認されている。 ・ 保護者会や座談会・懇談会等で保護者の意見の吸い上げを図っているものの、重要な意思決定にあたって保護者と継続的に意見交換を行うまでには至っていない。 ・ 主任は白峰学園横浜保育センターで行われた「主任研修」等に参加しているが、スーパーバイザーを計画的に育成するプログラムの作成までには至っていない。
<p>VI-3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国保育協議会や日本保育協会などの保育団体から毎月情報を収集している。それらの情報は、チーフ会議で分析等が行われ、必要な情報は職員に掲示するほか、職員会議等で報告している。 ・ 少子化や横浜市の動向など、先行きが不透明な中で情報収集の大切さを実感し、常に情報収集・分析を行っているものの、中長期的な計画を策定するまでには至っていない。 ・ 組織運営を行う中で地域のニーズ等を踏まえ、先駆的に「病後児保育」に取り組んだり、今までに「学童保育」を計画し、実験的に試みるなど、常に新たなサービスプロセスのしくみを検討している。 ・ 経理は会計事務所に依頼しており、アドバイスを運営面に活かして透明性・効率性を高めている。

家族アンケート取りまとめシート(保育)きらら保育園

結果の特徴

【調査対象】

きらら保育園の全利用者 108 名の保護者・家族にアンケートを実施した。

【調査方法】

事前にきらら保育園と評価機関の連名のアンケート依頼文を連絡帳に挟み込んでもらい、その2~3日後にアンケートを同じ方法で手渡してもらった。アンケートは約2週間の回答期間（平成17年11月下旬~12月16日）を設け、直接評価機関に返送してもらった。

【回答があった利用者及び回答者の概要】

利用者総数／ 108名
調査対象総数／ 108 家族・保護者
有効回答数／ 58 通
利用者総数に対する回答者割合 (%) / 54% (実家族・保護者総数に対して64%)

【回答があった利用者の内訳】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	無回答
回答者の	クラス	クラス	クラス	クラス	クラス	クラス	
クラス	13.8%	19.0%	19.0%	19.0%	13.8%	13.8%	1.7%

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になる。)

【利用者家族アンケート全体のコメント】

- 『総合の満足度』では、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせて96.5%がプラスの回答をしており、何らかの要望などはあったとしても回答者の概ねが満足していることがうかがわれた。
- 項目別では、満足度をたずねた37項目のうち16項目で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせたプラスの回答が90%を超えた。なかでも「遊び」についての5つの質問項目はすべて90%を超え、『園の遊びについて（お子さんが満足しているかなど）』や『園のおもちゃや教材については（お子さんが自由に使えるようにおいてあるかなど）』では、積極的なプラス回答である「満足」のみでも、60%以上になるなど、高い満足度であった。
- また、給食についての2項目でも「満足」のみで65~71%に達し、「どちらかといえば満足」も合わせると回答者の93%以上がプラスの回答をし、保育の柱1つにしている「食育活動」への取り組みが保護者に評価されていることがうかがえた。そのほか、『あなたのお子さんが大切にされているか』や『あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるか』などの項目でも同様に満足度が高かった。
- 一方で、『送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明』では、「どちらかといえば不満」「不満」をあわせると20%以上になり、個別の要望でもさらなる「お子さんの様子に関する説明」を求める声が多数寄せられた。また、『不満や要望を気軽に言えるかどうか』でも、「どちらかといえば不満」「不満」をあわせた回答が20%以上になった。
- 『保育目標・方針』は回答者の90%以上が「よく知っている」「知っている」と回答し、さらにそれらの89%が「共感できる」「まあ共感できる」と答えていることから、モンテッソーリ教育を根底に「自立」や「自律」をうたった「保育方針」は保護者から一定の理解を得ていると考えられる。

調査結果

■保育園の基本理念や基本方針について

(%は小数第1位までの表示とし、合計の小数第1位を四捨五入すると100%にな

あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか。	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
(人)	21	32	2	1	0	2
(%)	36.2%	55.2%	3.4%	1.7%	0.0%	3.4%



あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。	共感できる	まあ共感できる	どちらともいえない	あまり共感できない	共感できない	無回答
	26	21	5	0	1	0
	49.1%	39.6%	9.4%	0.0%	1.9%	0.0%

■保育園のサービス内容について

問2 入園する時の状況について

	1満足	2どちらかといえば満足	3どちらかといえば不満	4不満	5その他	6無回答
見学の受け入れについては	29	17	2	0	8	2
	50.0%	29.3%	3.4%	0.0%	13.8%	3.4%
	その他：・希望しなかった。 ・見学をしなかった。(同様の回答が3件) ・上の子がすでに入園していた。(同様の回答が2件) ・新設だったので見ていない。 ・見学する時間がなかったのでわかりません。					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	24	24	3	0	6	1
	41.4%	41.4%	5.2%	0.0%	10.3%	1.7%
	その他：・保育方針などは説明はなかった。 ・こちらから情報収集しなかった。 ・特に何もなかった・・・？ ・上の子がすでに入園していた。 ・見学する時間がなかったのでわかりません。					

入園時の面接については	31	25	0	0	1	1
	53.4%	43.1%	0.0%	0.0%	1.7%	1.7%
	その他：・なかった。					
お子さんの様子や育成歴などを聞く 対応には	30	25	1	0	1	1
	51.7%	43.1%	1.7%	0.0%	1.7%	1.7%
	その他：・親の学歴まで聞く必要があるのかと感じた。					
園の目標や方針についての説明には	26	27	2	0	4	0
	44.1%	45.8%	3.4%	0.0%	6.8%	0.0%
	その他：・特になかった。 ・特に聞いた覚えがない。(同様の回答が2件)					
保育園での1日の過ごし方についての 説明には	29	25	2	1	1	0
	50.0%	43.1%	3.4%	1.7%	1.7%	0.0%
	その他：・特になかった					
入園後に食い違いがなかったかなど も含め、費用やきまりに関する説明 について	18	28	8	1	3	0
	31.0%	48.3%	13.8%	1.7%	5.2%	0.0%
	その他：・特になし。 ・入園後の変更が多い。(「どちらかといえば不満」に○) ・突然変わる時があるので、前もって質問等にも答えて理解を得て から新しいことをやらないと協力が得られないのではないのでは。					

問3 保育園に関する年間の計画について

	1満足	2どちらかとい えば満足	3どちらかとい えば不満	4不満	5その他	6無回答
年間の保育や行事についての説明に は	19	32	4	1	1	1
	32.8%	55.2%	6.9%	1.7%	1.7%	1.7%
	その他：・行事などは提示されるが細かい説明は特になし。					
年間の保育や行事に、保護者の要望 が活かされているかについては	13	37	5	2	1	0
	22.4%	63.8%	8.6%	3.4%	1.7%	0.0%
	その他：・よく分からない。					

問4 日常の保育内容について

「遊び」について

	1満足	2どちらかといえば満足	3どちらかといえば不満	4不満	5その他	6無回答
園の遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	35	20	1	2	0	0
	60.3%	34.5%	1.7%	3.4%	0.0%	0.0%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	39	16	1	1	1	0
	67.2%	27.6%	1.7%	1.7%	1.7%	0.0%
	その他: ・先生の努力がわかる。(「どちらかといえば満足」に○) ・知的を目的とするものを設置して欲しい。おもちゃの入れ替え等も含む。					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	34	20	2	1	1	0
	58.6%	34.5%	3.4%	1.7%	1.7%	0.0%
	その他 ・戦略的ではない。(「どちらかといえば不満」に○) ・「行く」ことは聞くがその後の様子などの報告はない。					
遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係などについては	32	21	2	3	0	0
	55.2%	36.2%	3.4%	5.2%	0.0%	0.0%
	その他: ・遊びに保育士が関わらない。(「どちらかといえば不満」に○)					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	34	21	2	1	0	0
	58.6%	36.2%	3.4%	1.7%	0.0%	0.0%
	その他: ・身体をつかった遊びが少ない。(「どちらかといえば不満」に○)					

「生活」について

	1満足	2どちらかといえば満足	3どちらかといえば不満	4不満	5その他	6無回答
給食のメニューの充実については	41	13	1	0	2	1
	70.7%	22.4%	1.7%	0.0%	3.4%	1.7%
	その他: ・子供が「まずい」といっている ・内容には満足しているが量を食べてくても食べれないのが実情。 ・0歳児の当日のメニューを明記して実食物の横に提出して欲しい。					

お子さんが給食を楽しんでいるかについては	38	16	1	1	1	1
	65.5%	27.6%	1.7%	1.7%	1.7%	1.7%
	その他：・家や他の友達の家では食べるが園では楽しんでいない。 ・特に子供から話すということはない					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	31	19	3	3	1	1
	53.4%	32.8%	5.2%	5.2%	1.7%	1.7%
	その他：・昼寝を嫌がり、登園を嫌がる。 ・どちらかといえば、睡眠時間が決められている為、なかなか寝付けなかった日などずれ込んでしまうせいか、寝れないこともある。					
家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	32	16	1	3	5	1
	55.2%	27.6%	1.7%	5.2%	8.6%	1.7%
	その他：・見守っている。 ・おむつはずしが早いのではないか。親と一緒に進めるよう個別の対応が必要なのでは。家庭と園とで協力していくことが大事。 ・進め方が全体的に早すぎる気がする。出来る子は良いが、出来ない子に対する対応ができていない。 ・0歳児では早めではないか？1歳からの考え方はないのだろうか？ ・特に園からの話はない。 ・3歳からの入園で分からない。					
お子さんの体調への気配りについては	26	24	5	1	0	2
	44.8%	41.4%	8.6%	1.7%	0.0%	3.4%
	その他：・見ていない					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	23	20	5	5	2	3
	39.7%	34.5%	8.6%	8.6%	3.4%	5.2%
	その他：・結果を最後にいう。説明のしかたに問題。（「不満」に○） ・子ども同士のトラブルでのけが等、保育者の対応不足も感じる。子供の心理・心情も理解してほしい。 ・あたりなかつたりまちまち。					

問5 保育園の快適さや安全対策などについて

	1満足	2どちらかといえば満足	3どちらかといえば不満	4不満	5その他	6無回答
園舎、園庭などの施設については	36	18	2	0	0	2
	62.1%	31.0%	3.4%	0.0%	0.0%	3.4%
	その他：・よくできている。（「どちらかといえば満足」に○） ・園庭が狭すぎる。					

お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	31	23	1	2	0	1
	53.4%	39.7%	1.7%	3.4%	0.0%	1.7%
	その他:					
外部からの不審者侵入に対する備えについては	17	26	7	4	3	1
	29.3%	44.8%	12.1%	6.9%	5.2%	1.7%
	その他: ・カードなどの配慮がある。(「どちらかといえば満足」に○) ・園庭開放始めるらしく気にかかる。行事などでもチェックなしに入れるので多少不安。 ・園庭から外へ出る門の所が低すぎて、不審者が入りやすい。子どもでも入れてしまう高さなので心配。 ・侵入された場合の対応に関しては、返答できるほど、知らないのて…。					
衛生管理や感染症対策については	22	26	4	2	2	2
	37.9%	44.8%	6.9%	3.4%	3.4%	3.4%
	その他: ・やっているほうだと思う(「どちらかといえば満足」に○) ・おねしょした場合、シーツやカバーは洗えるが、お布団は消毒液をかけて干している。おねしょの回数が多い子に対しては、おねしょシーツを使用したほうが、衛生的ではないか。(同様の回答が2人) ・トイレ後の手洗い、戸外遊び後のせっけん使用はしているのか?					

問6 園と保護者との連携・交流について

	1満足	2どちらかといえば満足	3どちらかといえば不満	4不満	5その他	6無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	24	26	5	2	1	0
	41.4%	44.8%	8.6%	3.4%	1.7%	0.0%
	その他: ・働く母に対しての配慮なし。(「どちらかといえば不満」に○) ・話がゆっくりとできる時間がなく、もっと時間をとってほしい。(「どちらかといえば不満」に○) ・子供の様子をじっくりと話したい。また、ビデオに全員が写るように配慮してほしい。					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	34	17	5	0	2	0
	58.6%	29.3%	8.6%	0.0%	3.4%	0.0%
	その他: ・もっと個別に対応してほしい。(「どちらかといえば不満」に○) ・日々の連絡(掲示板)を怠っている。(「どちらかといえば不満」に○) ・行事などはよくかかっているが、クラスが替わるなど、大切なことは全然書かれていない。いつも突然でびっくりする。					

園の行事の開催日や時間帯への配慮については	31	22	2	0	2	1
	53.4%	37.9%	3.4%	0.0%	3.4%	1.7%
	<p>その他：・開催日近くになれば、玄関前に大きく時間などを掲示したほうがよい。 ・多数の家族が参加できるので、土曜日開催が多いのですが、土曜に仕事があるので、休みを取りづらい。時間帯は満足です。</p>					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	18	24	8	4	3	1
	31.0%	41.4%	13.8%	6.9%	5.2%	1.7%
	<p>その他：・アイコンタクトのみで保育者に引き渡せと指示あり、不満。(同様の回答が2件 内「どちらかといえば不満」に○が1人) ・保護者の対応も保育士の仕事ではないだろうか。 ・園だよりは、「あいさつ」と書いているものの、先生方の挨拶が少なすぎる。保護者にばかり要求せず、先生が見本となるべき。 ・幼児クラスになってからはほとんどない。 ・送りの時に、ドアのところで受け渡しになっているが、来てくれない先生もいる。</p>					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	23	23	7	2	3	0
	39.7%	39.7%	12.1%	3.4%	5.2%	0.0%
	<p>その他：・連絡不足が多い。(「どちらかといえば不満」に○) ・そのような事がなく分からない。(同様の回答が2人) ・大事なことはいつも突然言われるので良くないと思う。子どもが居る前で話されると、言いたいことも言えない。</p>					
保護者からの相談事への対応には	26	26	2	2	0	2
	44.8%	44.8%	3.4%	3.4%	0.0%	3.4%
	<p>その他：</p>					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	21	24	3	6	2	2
	36.2%	41.4%	5.2%	10.3%	3.4%	3.4%
	<p>その他：・ぎりぎりできなくなったから頼んでいるのに、早く連絡してほしいといわれる。お金を払っているのに……。 (「どちらかといえば不満」に○) ・感じが悪い。(「不満」に○) ・タイムカード式なので20:01を過ぎると料金を加算されてしまう。早い時間であれば快く対応してくれる。 ・分からない。</p>					

問7 職員の対応について

	1満足	2どちらかといえば満足	3どちらかといえば不満	4不満	5その他	6無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	36	17	0	4	1	0
	62.1%	29.3%	0.0%	6.9%	1.7%	0.0%
	その他：・ほっておかれているか、何かあれば対応してくれている。 (「どちらかといえば満足」に○)					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	39	14	4	1	0	0
	67.2%	24.1%	6.9%	1.7%	0.0%	0.0%
	その他：					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	21	23	1	3	4	6
	36.2%	39.7%	1.7%	5.2%	6.9%	10.3%
	その他：・よくやっていると思う。(「どちらかといえば満足」に○) ・分かりません(同様の回答が5件)					
不満や要望を気軽に言えるかどうかについては	19	25	6	6	1	1
	32.8%	43.1%	10.3%	10.3%	1.7%	1.7%
	その他：・なかなか難しい状態。(「不満」に○) ・やはり言いづらい事もあり、なかなかいえない。					
不満や要望への対応については	18	30	0	6	1	3
	31.0%	51.7%	0.0%	10.3%	1.7%	5.2%
	その他：・要望、アンケート用紙などで書くが、その後のケアがない。聞いてもらったのか分からない。					

問8 保育園の総合的評価

	1満足	2どちらかといえば満足	3どちらかといえば不満	4不満	5無回答
総合満足度は	34	22	0	1	1
	58.6%	37.9%	0.0%	1.7%	1.7%

利用者本人調査取りまとめシート(保育)

結果の特徴

[利用者対象]

利用者 108 名のうち予め施設側にリストアップを依頼した中から 10 名（全園児の 9.3%）を調査対象とした。（内訳：1 歳児 1 名、2 歳児 1 名、3 歳児 1 名、4 歳児 1 名、5 歳児 3 名、6 歳児 3 名）

[調査対象者の概要と施設全体の対比]

項 目	回答者年齢	人数	内 訳	園全体の人数
保 育 観 察	0～2 歳	2 人	男児 1 人・女児 1 人	31 人
	3～4 歳	2 人	女児 2 人	40 人
本人聴き取り調査	5～6 歳	6 人	男児 3 人・女児 3 人	37 人

[調査方法]

《保 育 観 察》

調査員 2 名が 1～4 歳児の 4 名を施設側から提供された利用者の情報シートを参考にしながら、保育現場での遊びや食事・排泄・午睡状況等を観察した。

《本人聴き取り調査》

5～6 歳児の 6 名に対しては、食事や遊び・排泄等の 17 項目について聴き取り調査を実施した。食事については給食をともにしながら、また遊びについても活動中の子供たちの脇で聴き取りを行うなど、子どもが話しやすい雰囲気配慮した。

[保育観察の結果]

《全体のコメント》

- 飛行機が飛ぶのを見つけ、周りのみんなに知らせようと「アーアー」と嬉しそうに声を上げたり、階段を山登りに見立てて後から上ってくる友だちや保育士に「がんばれ！がんばれ！」の声援を送ったり、友達とおしゃべりし、くすくす笑いあうなど、どの年齢の子どもも、友だちや保育士との関わりの中で思い思いに楽しんでいる様子が随所で観られた。
- また、保育士の「お話」にじっと聴き入り、おサルが樹から樹へ飛び移るしぐさを自分でも繰り返して真似をしたり、自由遊びの中でじっくり「雪のかげら集め」をするなど、子どもたちの真剣なまなざしから、どの子も集中して楽しみ、充実している様子がうかがえた。

- 生活場面では着替えや食事の配膳など、自分のペースで黙々と行う子どもや、自分の身支度をテキパキと終わらせ、友だちの「ボタンはめ」を手伝う子どもなど、縦割り異年齢保育の中で自然な形で子ども同士の助け合いが行われ、子どもたちは安定した気持ちで1日を過ごしていた様子を感じられた。

《項目別の特徴》

- ＜遊び＞ 外遊びでは、雪解け泥んこの中で、泥水遊びや水溜りの中をびちゃびちゃと歩き回る子、園庭全体を大きく友だちと手をつないで駆けずり回る子、散歩の途中で「写真ごっこ」をして盛り上がる子、など、友だちや保育士と関わりの中で存分に楽しんでいた。一方、保育室では、一人ひとりが織り機、数字遊び、立体パズル、ゴマすりなど自分の気に入った遊びや仕事などの活動に集中して取り組んでいる姿が見られた。
- ＜食事＞ 1～2歳児は保育士の優しい言葉かけで、全員が揃うまで、食べたくても待つことができ、全員が残さず食べていた。4～5歳児では、時計の長い針が4（12時20分）のところまではおかわりできるというルールもしっかり定着し、それぞれ自分のペースで給食を楽しんでいた。
- ＜排泄＞ 1～2歳児は保育室の一部になっているオープン形式のトイレで自分でズボンをめぎ、自分ではできない子どもには保育士が手伝って行っていた。汚したズボンなどは自分で近くにあるポリバケツへ入れることまで自然に行われていた。
- ＜午睡＞ 3～4歳児では布団の中で横になったまま隣で寝ている子と、小声でしゃべったり、くすくす笑ったりし、すぐには寝付けない様子だった。
- ＜清潔＞ 1歳児は、泥んこの水溜りで滑ってズボンを汚してしまい、保育士に取り替えてもらっていた。取り替えた後は、気持ちよさそうに活発に動き回っていた。

「本人聴き取り調査の結果」

《全体のコメント》

- しっかりと答えてくれる子が多かった。中でも「遊びについて」の質問では、全員が「好きな遊びがある」「保育園での遊びは楽しい」と答え、好きな遊びに、さらに保育園独特の活動である「織り機」や「牛乳パックで作られた編み機」をあげる子どもも複数いた。また、それらの活動は「遊び」と区別して「お仕事」と捉えている子もおり、それ以外の好きな遊びに鉄棒など園庭での活発な遊びをあげる子も複数いた。
- また、職員についても、全員が「先生はやさしい」「担任の先生でなくても声をかけてくれたり、困ったときは世話をしてくれる」と答え、子どもたちが保育士に信頼を寄せている様子を感じられた。
- ほとんどの子どもが友だちとけんかをしたときや、嫌なことを言われたりした時「先生は話を聞いてくれる」と答えていたが、「けんかはしない」「見つけた子が、とめてあげる」等の答えも聞かれた。

《項目別の特徴》

- ＜遊び＞ 回答者の全員が保育園での遊びは楽しいと答えており、園庭で「鉄棒を使ったぐるぐる回り」、「野球」など活発な外遊びや、保育室での「織り機」や「牛乳パックで作られた編み機」などじっくり物を作る遊びに人気があった。

- <食事>** ほとんどの子が給食が「楽しみ」と答えており、デザートを楽しみにしているとの声も聴かれた。最初に食べられる分だけ盛りつけるが、残したいときは、残すこともできること、おかわりは長い針が4をさす（12時20分）まではできることなどが子どもたちに浸透していた。
- <排泄>** 半数の子どもが「先生に断ってからトイレに行く」、残りの半数が「行きたいときに行く」と答えた。おもらししたときなどは、「先生に拭いてもらう」が全員であったが、状況を思い浮かべながら、「友だちに先生を呼んできてもらい先生に拭いてもらう」と答えた子も複数いた。
- <権利>** ケンカについては、先生が「聞いてくれる」がほとんどであるが、「けんかはしない」という子も少数だがいた。午睡については、ほとんどの子が「今はお昼寝はないけれど、眠れないときはゴロゴロしている」と答えている。
- <職員対応>** 全員の子どもが「先生はやさしい」「担任以外の先生も困ったときには助けてくれる」と答え、さらに、ほとんどの子どもが「園長先生は遊んだことはないけれど、お話をしたことはある」と回答した。

事業者からの意見(コメント)シート

開園して6年、0歳児で入った子どもが長い年月を当園で過ごし卒園を迎えました。そんな大きな節目に当たり、園の運営や保育理念に基づく毎日の保育を職員全員で見直し、機会にしていきたいと第三者評価を受けることにしました。受審して感じたことは、保育理念や方針について職員は勿論、保護者や子ども達も良く理解していただいているということでした。モンテッソーリ教育を取り入れて特徴のある保育を行っていますので、最初の頃はそれぞれにとまどいが見られました。しかし、毎年の積み重ねの中で、子ども達は確実に取り組む力が変わってきています。子どもの育ちを第一に考えた援助とはと、園便り、懇談会、一日保育体験、個別面談の機会に保護者の方々とお話ししてきましたが、何よりもひたむきな子ども達の活動への取り組みを目の当たりにし、私たちの保育、園の取り組みを支援して下さるようになったことを感じました。

保護者の要求になかなか答えられない部分があり、子どもの育ちへの援助と相反することもあります。お互いの事情を理解し合うことの大切さを感じました。

独自のマニュアルを必要に迫られて作成していましたが、多くの不足部分があることを認識いたしました。また、保護者の方や関連機関とのやりとり等の記録が抜けていたことで引き継ぎができなかったり、検証ができなかったりしていたことに改めて気づかされました。幾つかの改善点、課題が整理され、今後のやるべき道が見えてきたような気がします。